

No. 173

みぶ町政だより



6

月号

昭和48年6月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年9月30日第三種郵便物認可一部11円



町を美しく

きれいな生活環境で暮らしたいとだれもが願っていることでしょう。

6月は「環境整備の月」として、生活環境の整備促進を図ってご協力を願いましたが、その一つとして、各町内では、カヤハエの発生源となる側溝の清掃を、町建設業界の協力を得て共同で行ない、すっかりきれいになりました。

今月の人口

総人口	27,989
男	13,956
女	14,033
世帯数	6,513

役場チームが3連勝 — 職域野球大会 —

第17回町内職域野球大会が、6月3日、10日の2日間にわたり、14チームが参加し、熱戦をくりひろげました。

その結果、決勝戦は役場チームと呉羽合戦チームの対戦となり、熱戦の末、6対1で役場チームが大会3連勝を飾りました。



三連勝を飾った役場チーム



準優勝の呉羽チーム

アメシロを早期防除

今年もアメシロの発生する季節になりました。町では6月11日から15日まで、4Hクラブ員の協力を得て、学校など公共施設を巡回して防除につとめました。



今月の話題



五葉松・さつきの手入れを勉強

5月15日、2回目の高齢者教室が開かれ、五葉松の手入れとさつきの手入れについて勉強しました。この日の講師には、奥日光大学責任者伊沢茂さんが当たり、手伝いとして町盆栽クラブ(細谷信会長)5名の方が協力されました。

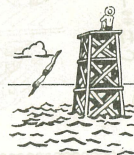


老人会で清掃奉仕

5月23日、自分の町内をきれいにしようと、東下台老人会(関本国平会長)では、用水堀跡の清掃奉仕を行いました。

この用水堀跡は、ゴミ捨て場となってしまう環境衛生上からも周囲に迷惑をおよぼすため、おとしよりたちが清掃に乗り出したもので、この日、町ブロック会と民生課の協力で用水堀跡を埋めため、整地をしてすっきりきれいになりました。

夏休み 近づく



うっとうしい毎日が続いています。7月中ごろまでは、まだ梅雨の名残りがあつて、雨の日が多く、家の中はなんとなくかびくさく、じめじめしているものが、上旬をすぎると、うっとうしい梅雨が明け、いよいよ本格的な夏を迎えようになります。7月は「健康管理の月」として、みなさんの健康の増進を図ってもらうことができました。夏休みもまじかです。子どもたちともいっしょに健康について考えてみましょう。



梅雨時です
本輪にあて
ましよう
かきき
かき
マサカ
サカサカ
サカサカ
サカサカ

健康

学校は二十日ごろから夏期休暇にはなります。これからは長いお休みにはなります。お母さんは、お子さんに病気をかからないように健康に気を付けて規則正しい毎日を過ごすように気を配るとともにお子さんにも約束させましょう。

夏休みをのびのびと過ごすためには、まず、からだを支える第一歩として、それが学校に夏休みのある一番たいせつな理由であり目的でもあるのです。それが学校に夏休みのある一番たいせつな理由であり目的でもあるのです。それが学校に夏休みのある一番たいせつな理由であり目的でもあるのです。

衣

家事をあずかる主婦の仕事を、年一回の虫干しや、家族の洗たくものもいっしょにやりました。梅雨のあととして、まづは主婦の本仕事です。つゆ明けを待ちかまえていたように、どこの乾いた目を遠んでみるのが、大切ですね。温度と湿度や育つ虫が、ひびいてきた衣類に卵を産みつけてタンスの中でふ化して育つ例があまりありません。毛織物などは、こまめに注意してください。梅雨の間に時おり弱ったカサアゲやワールの薄物は洗って、よく干し、虫にくれないように防虫剤を入れてビール袋にしまひましよう。

食

高湿度のこのころは、からだがだるい食欲もおとろえて、食欲がないときには何を食べてもおいしくない。それでは何となくかして食べようとする。お茶づけや冷やむぎなど、つるりとしたものは、かき混ぜて食べてください。これは、お茶づけや冷やむぎなど、つるりとしたものは、かき混ぜて食べてください。これは、お茶づけや冷やむぎなど、つるりとしたものは、かき混ぜて食べてください。

住

梅雨のあと、家の中は、どこかかびくさく、押し入れや食器棚、タンスの引出しなど、お天気のよい日を選んで一度、みんな開け放って、空気を入れかえよう。かびの気配をよけたら、流しの下や、けし箱の中も同じです。かびの気配をよけたら、流しの下や、けし箱の中も同じです。かびの気配をよけたら、流しの下や、けし箱の中も同じです。

夏だ!! 体をきたえよう

からだがだるい食欲もおとろえて、食欲がないときには何を食べてもおいしくない。それでは何となくかして食べようとする。お茶づけや冷やむぎなど、つるりとしたものは、かき混ぜて食べてください。これは、お茶づけや冷やむぎなど、つるりとしたものは、かき混ぜて食べてください。

危い! 子どもの水遊び

これから暑い夏を迎え、夏休みもあとわずかになりました。この季節になると子どもたちは水遊びがさかんにになり、そして水難の事故が多くなります。危険な場所には、子どもを連れていってはいけません。注意しましょう。

子どもは危険な場所が好き



夏の交通安全運動

交通事故絶滅
 一方、本町内の事件数は、五三件で死者一名、負傷者七一名も昨年を下回る併数を示しました。

夏は暑い時期となり、観光や夏祭り、盆おどりなどの催しが多くなり、ついでに、当然、交通事故多発の傾向にあります。そこで夏期に多い交通事故、として、七月十一日～七月三十一日までの二十一日間、死傷事故の発生をゼロにするのを目標として、交通安全運動を展開することになりました。

本町においても町民総ぐるみ運動を次の目標に行ないますので、各家庭、各自安全、母の会、各企業において交通安全の話し合いの場をつくり、壬生町から桶狭山以上の事故がおこないようにみなさんの協力を願います。

これは町として喜ばしいことです

移動図書館

— だれでも利用できます —

7月9日	中央公民館	13時30分
"	稲葉公民館	14時30分
"	南大飼支所	15時30分

いずれも停車時間は40分です。

農業者年金で豊かな老後を

農業者年金制度が創設されてから、すでに六年を経過しました。この間、金約一〇〇万人に達する農業者がこの制度に加入し、壬生町でも七五人が加入しました。

一承知のまに、この制度は農業者の方々で、農業委員会、農業協同組合など農業関係者が強い要望により創られたのですが、国民年金に加入している五万七千人以上の農業経営者は、必ず加入しなければならぬことになってお

重宝自標
 この運動は、道路交通の中で一番別、立場にある歩行者として、くまなく老人の死に事故絶滅を期すため、交通安全教育、広報活動に最重点をおく。

憩いの家に
 苗木を贈る

「老人憩いの家のまわりをきれいにしよう」と、町町老人クラブ（高橋明道会長）では、六月五日、憩いの家南側の花だんの清掃を行ないました。

また、菊の苗を持ち寄り、この日集まった十数名のおとしりの手で、一本、木植えられました。

この秋には、見守り花を染まませてもらえることしよう。

陸砂利採取と農地一時転用申請について

産業の開発、経済の高度成長によつて骨材（砂利）は欠このままでは、豊産産砂利資源地として、砂利と言へば里川か思川（小倉川）にと思われ、また、現状の河川には枯涸傾向にあって取り尽くすつありませぬ。最も河川保護、自然環境維持するために採取禁止区域や制限制度を進めなが、許可をしております。

しかし、骨材は、自動車道や東北新幹線の建設、民間建築など大規模になり、需要もともに大市況の増大するに必要と見られております。

今後は、河川砂利採取から地下資源の山、陸砂利に移行し、公有地から民有地へと（山林、原野谷む）一地主に採取の目的で、業者や関係者が土地賃借（一時）の契約を進められ、思われます。

陸砂利は「砂利採取法」、栃木県陸砂利採取許可事務機関」などによつて、申請、許可の制度があり手続きをしなければなりません。特に民有地においては、場合によっては、原野谷や公害の発生要因がきわめて複雑多岐にわたるため、農地を所有する地主について、自分利益だけでなく、土地利

用によつて近所や地域社会に迷惑（地下水位の上昇、道路損傷、採取後の放置など日常生活に接間）接間連）をかねないような条件が課せられます。

当然、地主は財産の時的利用で砂利採取をし、土地改良や現状より良い田畑にすることが、便利にするのであり、業者が採り理め促し、ついでに、業者が責任が最終的にはその土地の地主が責任をもつこととなります。砂利採取後の事故など、農地の場合、一時転用手続きがあり、農業委員会賃借による、時転用申請業者、地主をすることになります。

申請される場合は、転用申請書のほか採取許可申請書、申請書、所有する登記簿謄本、隣地、近隣居住者、公共機関、水利権者、通行する公私道など使用権者の各同意書、理士確保、状況不承諾書、図面のほか埋戻しに必要な経費連帯保証人一名以上、保証金の積立などが義務を要します。

契約しても書類が完備していない、不許可になる場合もあります。契約前に農業委員会事務局または農業委員に問い合わせをお尋ねください。

あなたも「二級技能士」の資格を

○技能者皆さへへ
 この講座は、生産地で働く技能者のために設けられたものです。近代化する産業に必要な技能の裏付けとなる専門知識を、名実ともに実力ある中堅技能者となります。

○経営者皆さへへ
 社内教育訓練の一環として、従業員の接納の水準の向上をはかり、

生産効率を高めるこの通信講座を
 採用されたいかがですか。

○募集訓練科
 機械科・工具張り科・仕上げ科
 電気科・電気計測科・建築科・時計修理科等、二十九科あります。

○受講科
 四〇〇〇円教材費その他
 四〇〇〇円訓練期間
 一カ年 申込みは、いつでも受

中小企業の方

夏季資金のご利用を

中元借付仕入資金、従業員手当金、決算資金などの調達を旨とするため、県では例年通り、夏季中小企業振興資金の融資を行ないますから、有効に利用ください。

融資制度の概要は、次のとおりです。

一、融資対象 中小商工業者など
 二、融資条件
 (一) 連帯保証
 (二) 融資限度額 一企業三〇〇万円
 (三) 融資期間 六月一日から十月三十一日まで
 (四) 融資利率 年六・六五%

電話局からお願い

最近電話の需要が急速に増加し、そのため電話線の増設工事を実施することになりました。

工事開始は、①壬生警察派出所、前、呉野合機場まで、②上通町山

国民一人一人が日常生活のあらゆる面において、行動や施設の安めましよう。

7月1日 国民安全の日

全について反省するとともに、安全確保を習慣化して、産業被害や交通事故、火災などを防止

見、ご要望がありましたら、遠慮なく栃木市電報電話局（電話一〇九二一番）へお申出ください。
 栃木市電報電話局

保育所へ贈り物

町保育所の子どもたちへ、次のようなたくさんの贈り物があります。

一、白き贈り物
 故元第一保育所長戸室勇さん（城南）の孫安彦君が四月八日、戸室さんへお出掛けに世話になったお礼として、平均百個ずつ、一〇〇名ずつ贈りました。

二、保育所
 上表町自治会鈴木貞一氏（六十二歳）は、五月二十一日、交通事故のため死亡されました。鈴木氏は、長い間上表町自治会長、町自治会連合会長として、また、国民年金協力委員として町のいろいろな仕事に尽くされました。また、昭和四十一年には壬生町自治労働者として表彰を受けておりました。



鈴木貞一氏死去

人事消息

善意銀行
 ○五五会（代表取締役正作さん）五〇〇〇円

お知らせ



し尿くみ取り 連絡先変わる

し尿くみ取りについての連絡先電話番号が、次のように変わりましたのでお知らせします。

- ▼日興社連絡先 塚田 亨宅
④王生(一)一五二七
- ▼み取り地区：下福楽、上福楽
七ツ石、安塚(一)、上長田
- ▼福南産業(株)連絡先 上三川町
④〇八五九一六一二三四七
- ▼み取り地区：国谷(一)、六美町、星の宮、アシダカ

心障者雇用相談 はじまる

栃木職安では、社会的に恵まれない心身障害者を対象に、能力に

7月の納税 お忘れなく 固定資産税 第2期分

電話広報 壬生(2)二二二番ご利用ください

応じた就業の機会を与えて、職業と生活の安定を図るため心身障害者の雇用促進と就職後の職業適応の促進を目的とした相談が四月一日から仕事を開始しました。これから求人申込み、職業相談、職場に付する不満の解決などにぜひご利用ください。

◆相談員 茅島誠
「栃木公共職業安定所」
電話栃木(02)二二二番

七月心配二と相談所

- 第一火曜日 三日 役場日本間
- 第二火曜日 十日 稲葉公民館
- 第三火曜日 十七日 役場日本間
- 第四火曜日 二十四日 南天興公民館
- 第一火曜日には、行政相談人権相談も併せて開設します。
- 「時間はいずれも1時から3時まで」

廃車は ナンバーを返して

軽自動車(二五〇C以下)を所有している方、他市町村に転出する方、または使用不能になった時は、十五日以内、廃車手続き(役場住居課)をしください。この際、ナンバープレートおよび

免許更新時講習

七月の日程は次のとおりです
○十三日(金)、二十六日(木)
いずれも午前十時から役場第一会議室。

廃犬引き取り日

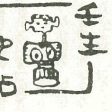
- 廃犬は、はさまないで廃犬引き取り日に出してください。
- 日程 六月十二日、二十七日
- 場所 および時間
役場本庁 九時十分まで
南天興支所 九時四十分まで
稲葉支所 十時まで

妊婦検診

- とき 七月、二十四日
- 午後一時から
- ところ 母子健康センター
- 該当者 壬生町に居住する全妊婦の方

訂正

先月号「二」ページ中「壬生史帖」の記事の中で、西方村護国寺とありましたが、これは都賀町家中の誤りですので、訂正しておわびいたします。



名所巡り

菩薩様の里帰り(続)

「こまごま、米るとか御迎する費用がどの位かかるかを考え見なければならなかった。そこで石鉄に言った。この位の値段で御ゆすりして頂ける。当って見た。昔福沼に身売された当時は、三十四万円であったが、現在では八十四万円であらうという事であった。さて口でこそ八十四万円であるが八十四万円でも成り遂げたいが、売る程の面積も持たないO氏は少し金の工面に困った。考えた末自分が勤めている会社の女社員のMさんに頼むことを思いついた。Mさんの土地は売れないが砂の採集権なら売れる。そう思っ、Mさんに話すと反対の位かと聞かれた。「一銭も買いません」と答えるとMさんは「あなたが言うのには何か深いしやいがあると思うが何かわけがあったら遠慮しないで言ってみるがよい」と言った。O氏は地蔵様のこれまでの話の一部始終を話した。話を聞いたMさんは非常に熱心な日蓮宗の信者なので御仏をお迎する話に心から賛成をなされ、且つ八十万の経費を負担して下さいの旨をわけがえられた。O氏は小籠りにて数ヶ家に帰って今迄の経過を告げて見ると、とんとんと次から次へ事が運ぶのも御地蔵様の御導きの賜物と考えた。

次に御地蔵様の御名前で。昔から何かの事故で首が欠けたので首无地蔵といわれたという話も伝わっている。法因寺の樓舎に所在した事があるが法因寺の御地蔵と呼ばれたとも云われる。或るの同志の集りにこの話が出て、御地蔵様の多く御出になる日光菩薩満のお化地蔵様を拜観し、その中に同一のお地蔵様が御いでになかどうか確かめようということになった。一月二十日を過ぎた或日、同志五名の者が日光菩薩の御地蔵様に参詣を機嫌に出掛けた。百体余りの御地蔵様を丹念に拜んだところ同様な御地蔵様の数体あることを確認して帰って来た。七ツ石地蔵は頭冠瑠璃、印相は上品上生か法界印であった。頭冠瑠璃は地蔵尊像に珍らしいことではないが印相は如来像とか菩薩像とかを決定する重要な要素であるので今まで地蔵尊とのみ信じて来た御仏は或は阿彌陀様とか釈迦尊とか云ったみ仏ではないかと思われ。何れにしても近い中にみ仏の故郷七ツ石に御帰りに至るので、その時本当の御影を拜し決定したいと思っている。【筆者大垣】